

1 - 6 1980年2月23日の北海道南東沖の地震

The Earthquake off the Southeast Coast of Hokkaido, Feb. 23, 1980

気象庁地震課 地震予知情報室
OIEP, Seismological Division, Japan Meteorological Agency

1980年2月23日14時51分05.4秒，北海道南東沖，北緯43度27分，東経146度33分，深さ30kmにM6.8の地震が発生した。震度の最大は，根室，釧路における4であった。

第1図及び第2図は，それぞれ，3月20日までの余震分布及び余震の日別回数である。第1図には，この地域に起った巨大地震の震央及びMの値も合せて示してある。海溝軸にほぼ直角にひいてある直線は，これらの巨大地震の震源域の境界を表わしている。

今回の地震は，1969年の北海道東方沖の地震（M7.8）の震源域内で起ったものと考えられるが，この地域はM7前後の地震がしばしば発生するところである。図には，1975年6月10日の地震（M7.0）の震央及びおおよその余震域（点線の部分）を示してある。ただし，現在（1978年1月以降）この地域の地震については，他の地域における地震の場合とは異った走時によって震源決定が行われている¹⁾ので，1975年の地震についても，余震を含めて，現在と同じ方法で求めた震央を示してある（地震月報掲載の値とは異なる）。

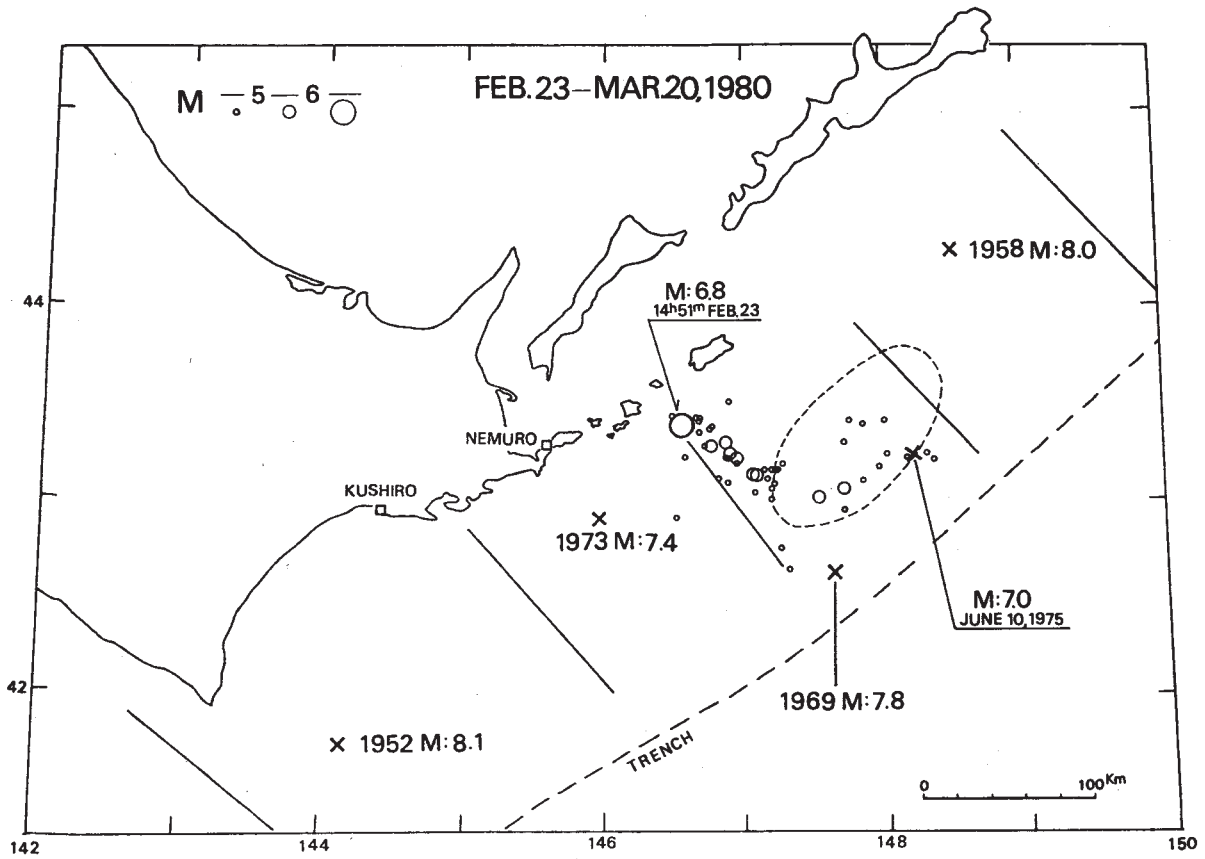
余震は，第1図でわかるように，本震から南東方向にのびる帯状の地域と，1975年の地震の余震域の南部，の両地域にほぼまとまって起っている。また，余震の回数は，第2図のとおりほぼ順調に減衰している。

第2図で黒点をうって示した余震は，第1図の点線で示した1975年の地震の余震域内で起ったものである。この領域の余震は，2月25，26日と3月4日及び6日にまとまって起っている。

第2図の上部は，根室における有感地震の日別回数及び震度である。

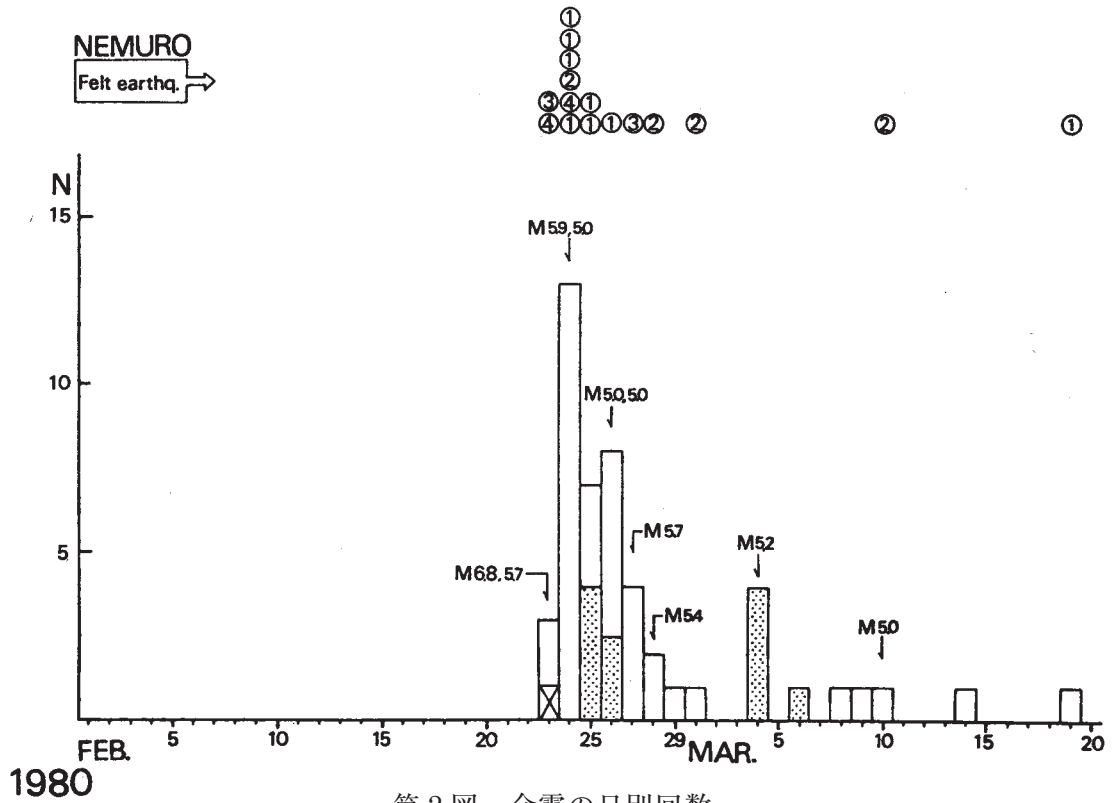
参 考 文 献

- 1) 市川政治；気象庁における震源要素新計算法と走時表，*験震時報*，**43**（1978），11 - 19.



第1図 余震分布図。点線は1975年の地震の余震域を示す

Fig. 1 Distribution of epicenters of aftershocks. Dotted ellipse indicates the aftershock region of the earthquake of 1975.



第2図 余震の日別回数

Fig. 2 Daily number of aftershocks.